

中部支部大会報告

支部長 大石晴美
(岐阜聖徳学園大学)

日頃より、中部支部の活動にご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。2013年6月1日(土)岐阜聖徳学園大学において、「第29回中部支部大会」を開催いたしました。愛知、岐阜、三重、静岡、長野のみならず、関西地方を中心として多方面からの参加者を多数お迎えし盛況な大会となりましたことをここに報告と感謝申し上げます。また、大会の開催にあたり準備に携わっていただきました支部役員を含め会員皆様のご協力とご尽力に心

より感謝申し上げます。

本大会のテーマは、「レトリックからみた英語教育—グローバルコミュニケーション能力の育成—」でした。講師として瀬戸賢一氏(佛教大学)をお迎えし「レトリックと文法」と題して講演いただきました。講演の中で、瀬戸氏は、英語文化圏と日本文化圏のレトリックの相違に注目し、メッセージ伝達において、英語文化圏の「書き手責任」と日本語文化圏の「読み手責任」の対立となって現れるため、その違いを理解する必要性を論じられました。レトリックは、それぞれの面に複数の区分けを含むひとつの大きな多面体であるとされ、それぞれの文化は、それぞれの方向を向くレトリックがある。そして、このレトリックの技法を日本の英語教育にも浸透させコミュニケーション能力を向上させることにつながられました。

シンポジウムでは、「レトリック研究から見えてくる英語習得/教育への洞察」をテーマとし、大森裕實氏(愛知県立大学)、谷口一美氏(京都大学)、豊田昌倫氏(京都大学名誉教授)、吉川 寛氏(中京大学)が、言語学、文学、異文化理解の観点から論じてくださいました。特に、グローバル化時代における高等教育(大学)の在り方が問われる時代に、学士力向上に関連する教養教育の充実を図り、グローバル人材を育成し、外国語(英語)能力を涵養するためには、レトリックの相互理解が必

目次

2013年度中部支部大会報告	大石晴美	1頁
講演会報告		
白石さや氏「グローバル化する若者文化と言語」	小宮富子	2頁
国際シンポジウム報告		
Symposium on Second Language Writing	佐藤雄大	4頁
研究会紹介		
「国際英語と異文化理解」	吉川 寛	5頁
Cyber Space		
小学校英語ウェブコンコーダンスー	藤原康弘	6頁
掲示板		7頁
事務局より		8頁

要であることをそれぞれの学問分野の観点から議論を繰り広げていただきました。

夕刻の懇親会でも、講演会、シンポジウムで燃焼しきれなかった疑問やコメントを講師やパネリストの先生方に向けました。共に食事を味わいながら、食事の味を超える「ことば」でとことん議論を重ね、瀬戸先生とともに「味ことばの世界」を堪能できたこともうれしく感じます。

最後に、本大会に後援をいただいた岐阜県教育委員会に感謝申し上げます。協賛業者の方々から出版物の展示も豊富にそろえていただきご協力に感謝申し上げます。また、会場施設を提供していただいた岐阜聖徳学園大学およびスタッフの方々に心より御礼申し上げます。岐阜駅からさらにバスを使用する地の利が悪い中、遠くからお越しくくださった参加者の皆様に再度御礼申し上げます。今後の大学英語教育学会中部支部の発展に向け、議論を重ね研究が深められたことに喜びを感じます。皆様ありがとうございました。

講演会報告

「グローバル化する若者文化と言語」

白井さや

(岡崎女子大学教授・東京大学名誉教授)

2013年10月5日

(於 中京大学)

去る10月5日(土)、中京大学にて中京大学国際英語学研究科講演会がJACET中部との共同企画で開催された。講師は岡崎女子大学教授・東京大学名誉教授の白石さや氏であり、テーマは『グローバル化する若者文化と言語』であった。白石氏は文化人類学とアジア研究の専門であり、国際基督教大学で修士号、コーネル大学でPh.Dを取得後、コーネル大学客員助教授、東京大学大学院教育学研究科教授等を経て現職にあり、日本国際文化学会の会長としても活躍しておられる。

今回の講演は、現代のマンガ・アニメを中心とするグローバルな若者文化の形成過程を100年前のインドネシア共和国の成立事情と対比的に論じて、デジタル言語を駆使する若

南雲堂の英語テキスト

多読とライティングの『総合時事英語テキスト』が登場！ 2013年度新刊 木村友保 / 佐藤雄大 / 浅井恭子 編著

Better Reading, Better Writing with NHK WORLD NEWS B5判 120頁 CD付 2,100円(税込) 全28章 各章4ページ Review test 有
『NHKワールド・ニュースで学ぶ日本と世界の姿』—多読とライティングでその深層に迫る— 多読とライティングを通して時事、放送英語の捉え方をマスター！

POWER-UP シリーズ

▶ *Power-Up English* <上級編>/<中級編> 2013年度 改訂新版登場！/<基礎編> ▶ *Forerunner to Power-Up English* <入門編> も好評！
コミュニケーションに必要な英語の基礎力養成に！ JACET リスニング研究会編 B5判 1,995円(税込)~

片野田浩子先生 大好評テキスト<TOEIC>シリーズ！

A Shorter Course in TOEIC Test Reading 450, 550, 650 K(カナダ)メソッドによる『5分間』新TOEICテスト・リーディングシリーズ

A Shorter Course in TOEIC Test Listening 450, 550, 650 K(カナダ)メソッドによる『5分間』新TOEICテスト・リスニングシリーズ

サブテキストに！ 半期用教材として！ 使い方多様！ レベルに合ったスコア別に！ 大好評『5分間』シリーズ B5判 各735円(税込)

〒162-0801 東京都新宿区山吹町361 TEL: 03-3268-2311・FAX: 03-3269-2486・E-mail: nanundo@post.email.ne.jp・URL: http://www.nanun-do.co.jp/

者が新しい「想像の共同体」を作りつつある現状を語るとともに、言語が「想像の共同体」の形成に果たす役割を浮き彫りにする、実に躍動感のある講演であった。

白石氏はインドネシア成立の過程について、多島海海域の60%がジャワ人であったにも関わらず、ジャワ語でなくマレー語をリンガフランカとすることによって、多島海の多様な人々がインドネシアという一つのnationを形成していったことを、ベネディクト・アンダーソンの『想像の共同体』を引用しつつ説明した。若者達が「想像からインドネシア人の自分が始まる」という認識を持ち、多様な文化をつなぐ唯一の共通項としてマレー語を育てていったこと、また日常の言語と「未来共同体の国民語」の二重言語の中に生きていたことの重要性が語られた。

またそれは、現代のマンガやアニメのグローバル化現象とも重なるという。日本のアニメが世界各地に広まっている現状を、氏は世界各国版の「鉄腕アトム・セーラームーン・ドラえもん」などの映像を通して紹介し、日本のマンガの表現力の高さを例示し、マンガを世界の中のイノベーションと捉えうることを指摘した。

特に興味深く思われたのは、Peter Katzensteinによる「国際化」と「グローバ

ル化」の概念的区別である。「国際化」が「国民国家を基本的アクターとする、境界線を越える国家間の活動」を指し、ナショナリズムが存続するのに対し、「グローバル化」は「時間と空間を超える、非領域的なグローバル・プロセス」であり、そのアクターは（企業・銀行・NGO・NPO・ファン・個人などの）個人アクター non-state actor であって、「利益関心や嗜好を追及する活動として、また相互間の競争を衝動として」進行するという。グローバル化と国際化で、アクターが異なるという指摘は実に衝撃的であった。白石氏は、マンガは国際化したのではなく、グローバル化したのだと指摘する。また、そのグローバル化を支えたのは「デジタル言語」という第二言語のリテラシーを習得した若者達であったという。それは、ビル・ゲイツやスティーブ・ジョブズが新しい世界の動きを作りだしてきた現象と並行している。母語とデジタル言語に英語が重なることにより、グローバル化がさらに加速する一方で、「国際化」の動きもみられ、今後の方向性は単純には予見しがたいことなども語られた。

小宮富子（岡崎女子大学）

e-ラーニング語学学習の決定版！全国430校以上の教育機関で導入

ALC NetAcademy 2

◆ 充実の16コース ◆

基礎英語・リディアル教育

- 初中級コース プラス
- 基礎英語コース
- 英語入門コース

ESP(専門英語)学習対応

- ライフサイエンス英語コース
- 技術英語<基礎>コース
- 技術英語<パワーアップ>コース
- 医学英語<基礎>コース

英語総合学習対応

- TOEIC®テスト演習2000コース
- スーパースタンドコース
- スタンドコース
- PowerWordsコース プラス
- 英文法コース
- ライティング<基礎>コース

英語以外のコース

- 日本語コース
- 中国語コース
- ITパスポートコース

独自のLMSと学習機能

- 使いやすいクラス管理機能
- 小テスト作成機能
- 学習者ランキング
- 語彙テスト(道場)
- <オプション機能>
- 認証連携対応
- 学外アクセス(自宅学習)対応

デモ版のご紹介も行っております。ぜひ一度ご覧ください。

(株)アルク教育社 Tel:03-3595-2841
bunkyo@alc-education.jp

Symposium on Second Language Writing 2013

Symposium on Second Language Writing は、第二言語ライティング研究で著名な Tony Silva (Purdue University) と Paul Kei Matsuda (Arizona State University) が、1998 年から開催している第二言語ライティングの国際シンポジウムで、今年で 12 回目を迎えた。この学会は、米国と海外との交互開催で行っている国際シンポジウムで、今年は 10 月 17 日～21 日に中国で開催された。会場となったのは、山東省の省都・済南市にある山東大学 (Shandong University) で、ちょうど北京と南京との中間に位置する総合大学であり、中国の中でも歴史がある大学の一つだということだった。

私は、この学会が名古屋で開催された 2007 年の第 6 回と台湾で開催された 2011 年の第 10 回で研究発表を行い、今まで研究発表や参加を通じて、第二言語ライティング研究でいろいろな刺激を受けてきた。今回の中国大会では、科研費助成研究として進めている日本のライティングセンターの研究 (『日本人のた

めの英語ライティングセンター構築の可能性とその実現計画』木村友保 (名古屋外国語大学) 代表) の成果の一部を報告するため、共同発表者のムーディ美穂氏とともにこの学会に参加した。

中国の山東省は、日本から距離的にそれほど遠くなく、移動にも時間はかからないだろうと考えていたのだが、実際飛行機の手配を行うと、名古屋からの直行便は無く、上海で乗り換えるにしても上海を夜 10 時に出発し、済南市に 11 時 30 分着となり、さらにその空港から市内へは 30 分以上もかかることなどがわかり、想像以上に大変なことがわかった。実際、往路では、大きな問題は発生しなかったものの、飛行機の遅れなどもあり、現地のホテルに到着したのは夜中の 1 時過ぎとなった。

今回の発表は、昨夏調査訪問した東京大学・早稲田大学・上智大学・国際教養大学・政策研究大学院大学・津田塾大学でのライティングセンターの現状と問題点 (「ライティングセンターが大学内で十分認識されていない」や「学生がライティングセンターによる修正を過剰に期待する」など) を報告した後、これからライティングセンターを設置する際、どういう方針でセンターを立ち上げるかという点

大学生のための新しい英語力診断テスト

VELC Test[®]

[ベルクテスト]

Visualizing English Language Competency Test

お問い合わせ：VELC 研究会事務局
東京都千代田区神田神保町 3-21 (株) 金星堂 内
e-mail: info@velctest.org 電話：03-3263-3828 FAX: 03-3263-0716
http://www.velctest.org

で、ヴィゴツキーを引用し「思考と書くこと」の研究を紹介した。ライティングセンターの発表を集めた会場で発表を行ったため、聴衆の関心も高く、米国、中国の参加者から質問があり、活発なやりとりを行うことができた。発表後もいくつかの質問を受け、大学のライティングセンターの数がまだ少ないアジア圏での現状に参加者の関心が高いことが分かった。また中国で初めて大学に英語ライティングセンターを作った西安外国語大学 (Xi'an International Studies University) の Dan Wu 教授からも関心を持っていただき、日本の現状がよく理解できるという意見をもらった。

3泊4日の旅程の中、学会発表・参加は実質1日で、多くの時間を空港・移動で過ごした印象だったが、同じ領域で研究活動をしている海外の研究者との交流からいろいろな刺激を受け、様々なアイデアを発見することができ、今回も忙しい中でも国際学会に参加することに大きな意味を感じた。

佐藤雄大 (名古屋外国語大学)

研究会紹介

国際英語と異文化理解

「国際英語と異文化理解」研究会は国際英語論と異文化理解の視点から英語教育のあり方を考える研究会であり、現在の主たる研究活動は科学研究費基盤研究 (C)「アウターサークル英語との接触が日本人の英語学習に与える教育効果の検証」(平成23年度～25年度)をめぐって行われている。科研費助成研究に関して各人が研究分担に沿った研究を進める他、それぞれの個人研究も実施している。

研究会員は例年 IAWE (International Association for World Englishes) 世界大会や ELF (English as a Lingua Franca) 世界大会に参加し、国際英語論研究の最新動向の把握に努めている。JACET 関連の研究発表では、2011年の福岡での JACET 国際大会において研究会員全員で研究会ポスター発表を、2012年の愛知での JACET 国際大会では、吉川寛・小宮富子がシンポジウム研究発表を、2013年の岐阜での JACET 中部支部大会では吉川寛がシンポジウム研究発表を行った。

JACET 関連の論文発表では、2011年度

成美堂 2013年 新刊テキストのご案内

学習者のやる気を引き出す、やさしい総合教材!

角山照彦, Simon Capper

Let's Read Aloud & Learn English!

豊富なタスクを取り入れたニュース映像教材!

熊井信弘, Stephen Timson

CBS NewsBreak

身近な話題から世界へと広がる科学の映像教材!

椋平 淳, Bill Benfield, 辻本智子, 村尾純子

AFP Science Report

やさしい TOEIC のリスニング副教材!

石井隆之, 山口 修, 小林英雄, 梶山宗克, Joe Ciunci

Listening Promoter for the TOEIC® Test

好評 TOEIC シリーズの決定版!

石井隆之, 山口 修, 上田妙美, 梶山宗克, Joe Ciunci

**Perfect Practice
for the TOEIC® Test**

TEL:03-3291-2261

FAX:03-3293-5490

<https://www.seibido.co.jp>

 **SEIBIDO**

の『JACET 中部支部紀要 第9号』で倉橋洋子が論文を執筆した。また、2012年度『JACET 中部支部紀要 第10号』では全員で「英語多変種との接触が学習者の英語観に与える影響—Outer Circle 英語に焦点を当てて—」と題する論文が共同執筆された。

JACET 関連以外では、塩澤正が2012年『英語教育』62(1)に、吉川寛が2013年『英語教育』62(3)に、それぞれ小論を執筆したこと、アウターサークル英語の現状を観察すべく、2012年8月に吉川寛がシンガポールに、12月に小宮富子がインドに出向いてアウターサークル英語の使用状況をリサーチしたこと、2013年12月に日本「アジア英語」学会で榎木蘭鉄也と吉川寛がシンポジウム発表を行ったことなどが挙げられる。

研究会の今後の活動としては、これまでの研究成果を踏まえた著書の共同執筆を進めることが目下の課題となっている。また、引き続き競争的研究資金の獲得に努力するなど、研究会としての研究環境を整え着実な研究活動を進めていきたいと考えている。

吉川 寛 (中京大学)

Cyber Space

小学校英語ウェブコンコーダンスー

去る10月末日、各紙が一斉に小学校の英語授業の開始年度の前倒し、および正式な教科化について報道したことは記憶に新しいでしょう。この文部科学省案によれば、2020年を目途に、3年生より週に1度、外国語への興味・関心の向上を狙いとした外国語活動を実施し、5年生より週に3度、聞き・話しのみならず、文字を用いた読み・書きも含め、いわゆる4技能の向上を狙いとした「英語」という教科を導入することになります。

この案について、既にさまざまな賛否両論を耳にしますが、その前に小学校の英語の教育内容は、英語教育関係者はもちろんのこと、多くの方によく知られているのでしょうか？

いくつかの調査によれば、中高の英語教員でさえも、多忙なことを主たる理由として、小学校英語への意識が高まってはいないことが指摘されています。そのような中、小中連携を進めるために作成されたのが、「小学校英語ウェブコンコーダンスー」(<http://www.aue-english.aichi-edu.ac.jp/pg248.html>)です。

「小学校英語ウェブコンコーダンスー」



「小学校英語ウェブコンコーダンスー」
(Bora & Fujiwara, 2012-)

(Bora & Fujiwara, 2012-) は、小学校外国語活動に関連する教材・指導書、教室英語表現資料集、および児童英語検定関連書籍のテキストを、教育、および研究に限定した目的で、ウェブ上で検索することを可能にするシステムです。教育、研究に限定した目的となりますので、小中高の教員、および大学の研究者であれば、上記の URL よりこのサイトに入場いただき、アカウントを申請していただければ、フリーで利用できます。詳しい利用法は同 URL にマニュアルをおいておりますので、そちらをご覧ください。

利用の例として、たとえば、小学校の先生であれば、教材作成や他の小学校で学習されている可能性の高い表現を確認することができ（小小連携）、中学校や高校の教員は小学校時代にどのような表現に慣れ親しめたのか、また慣れ親しめていないのかを理解することができます（小中連携）。また大学の先生方は、2002 年度より導入された総合的な学習の時間における英語活動用のテキスト、2011 年度より実施された「小学校外国語活動」の文科省発行のテキストなどを比較し、今後の小学校英語教育を見据えること、また今後の小中高の英語教育のグランドデザインを試案することもできるかもしれません。

現在も賛否が渦巻く英語教育「改革」一どうあれ、小中高大、首尾一貫し、よく先読みができており、かつ実施可能なプランが形成されることを心より願っています。その一助となれば幸いです。

※本ツールの作成においては、「公益財団法人 堀科学芸術振興財団」の第 20 回研究助成、および文部科学省特別経費事業（事業名：小学校外国語活動を前提とした小・中・高での英語関連科目の連携を進める英語教員養成カリキュラムの開発と授業実践力を高めるための教育改革）の財政

的支援を受けております。

藤原 康弘（愛知教育大学）

中部支部定例研究会のご案内

2月15日（土曜日）に、中京大学名古屋キャンパスにおいて、2月定例研究会を開催します。安村仁志氏（中京大学教授）によるご講演も予定しております。プログラムの詳細は、1月末ごろお知らせいたします。お誘いあわせの上、ぜひご参加ください。

※12月定例研究会プログラムで、2月定例研究会の日程を誤ってお伝えしておりました。お詫びして訂正します。

掲示板

JACET 中部支部紀要第 12 号への掲載論文（学術論文、研究ノート、実践報告、書評）を募集いたします。ふるってご応募ください。締切は 2014 年 8 月 20 日です。詳細は支部ホームページをご覧ください。

締切： 2014 年 8 月 20 日

掲載料： 刷り上がり 1 ページにつき 1000 円の割合となります。

長さ： 論文 15 ページ、実践報告・研究ノート 10 ページ、書評 5 ページ程度

注意： 投稿方法や投稿先が変更される可能性があります。投稿規定詳細とあわせて、ホームページでご確認ください。

問合せ： JACET 中部支部事務局

中部支部紀要編集委員会

事務局より

◆第2回支部総会開催報告

第2回支部総会が12月21日(土)14時より中京大学名古屋キャンパスにて開催されました。2013年度理事会報告、2013年度事業計画の進捗報告、2013年度予算の執行状況報告が行われました。また、支部役員会から提案された、2014年度事業計画案、2014年度予算案、2014年度人事案が承認されました。

2014年度の中中部支部の主な事業予定は以下の通りです。詳細情報・変更情報などは、支部ホームページでご確認ください。

6月7日	第30回中部支部大会・第1回支部総会
8月20日	『JACET 中部支部紀要』12号 投稿締切
12月20日	12月定例研究会・第2回支部総会
2月14日	2月定例研究会

◆12月定例研究会の開催報告

12月定例研究会が12月21日(土)14時30分より中京大学名古屋キャンパスにて開催されました。「国際英語と異文化理解」研究会による2件の研究発表と宗宮喜代子氏(岐阜聖徳学園大学)による講演が行われました。

◆新入会員のご紹介

2013年4月より11月までの中部支部所属新入会員は以下の方々です。(敬称略、入会順)

Crane, Paul (名古屋外国語大学)、中山麻美(名古屋学院大学)、内川元(中京大学・非常勤)、野坂美紀(南山大学院・大学院生)、宇治谷映子(名古屋外国語大学)、山森孝彦(愛知医科大学)、桐野衛二(順天堂大学静岡病院 メンタルクリニック)、キング・ケリー(国立大学法人 福井大学)、江口朗子(名古屋

屋大学・大学院生)、加藤和美(東海大学)、栗原ゆか(東海大学清水教養教育センター)、鈴木幸平(三重大学)、Gough, Wendy(布池外語専門学校)、谷口ジョイ(東京大学大学院・大学院生)、新多了(名古屋学院大学)

◆2014年度JACET国際大会ご案内

第53回(2014年度)国際大会は2014年8月28日(木)～8月30日(土)の3日間、広島市立大学にて開催されます。研究発表申込締め切りは2月7日です。詳細は本部ホームページでご確認ください。

大会テーマ

Fostering English Communicative Competence for Peace and Friendship

「平和と友好をめざす英語コミュニケーション力の育成」

◆ ニュースレターは会員の皆様のフォーラムです。ご意見、ご要望等は事務局までメールでお送りください。投稿も歓迎いたします。

中部支部事務局

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町
名古屋工業大学 石川有香 研究室内
E-mail ishikawa.yuka@nitech.ac.jp

JACET-Chubu Newsletter No. 31

2013年12月20日発行

発行者： 一般社団法人大学英語教育学会中部支部
大石晴美

編集者： 石川有香
佐藤雄大 室 淳子